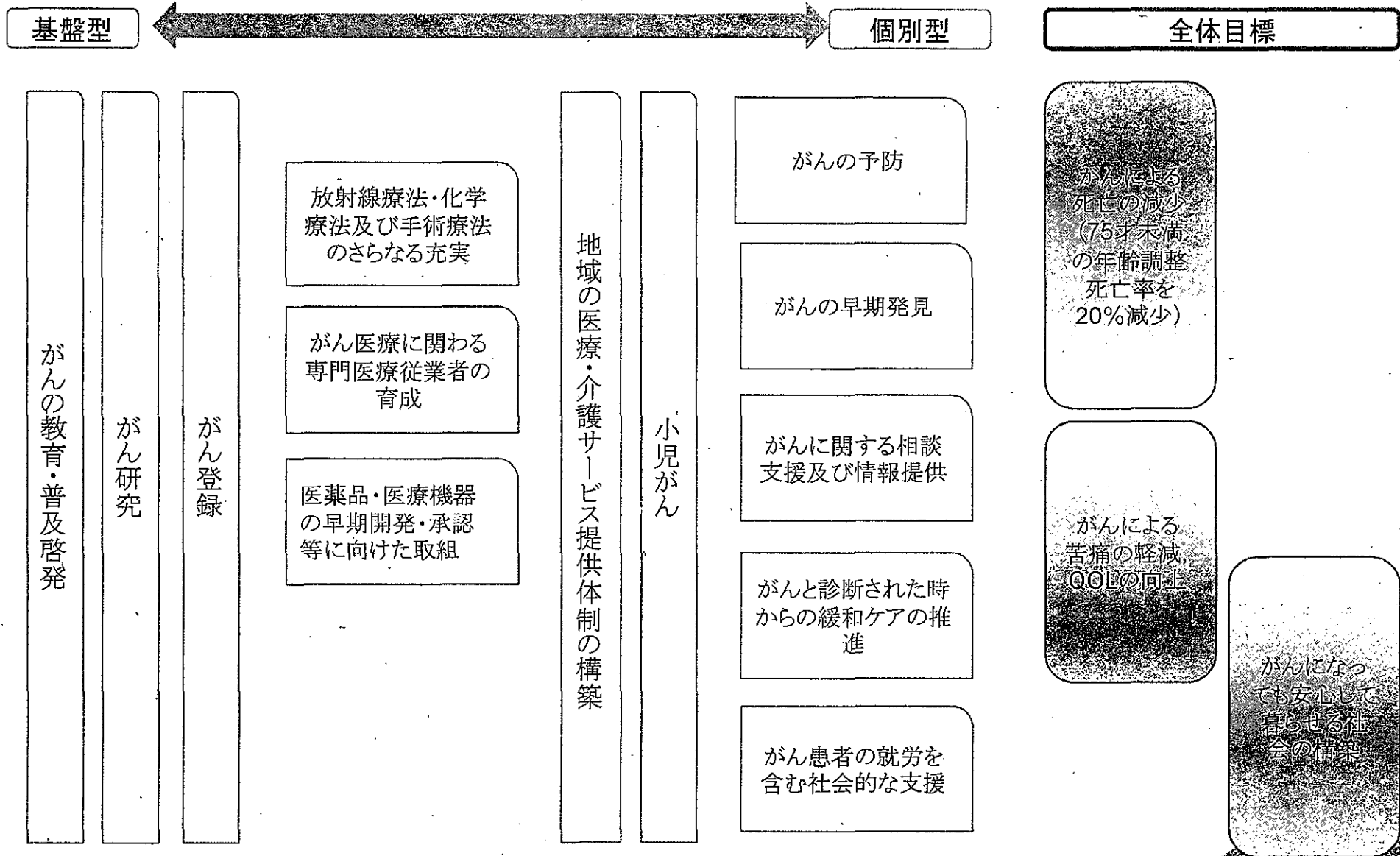


患者QOL評価指標検討の考え方及び 今後の調査等について

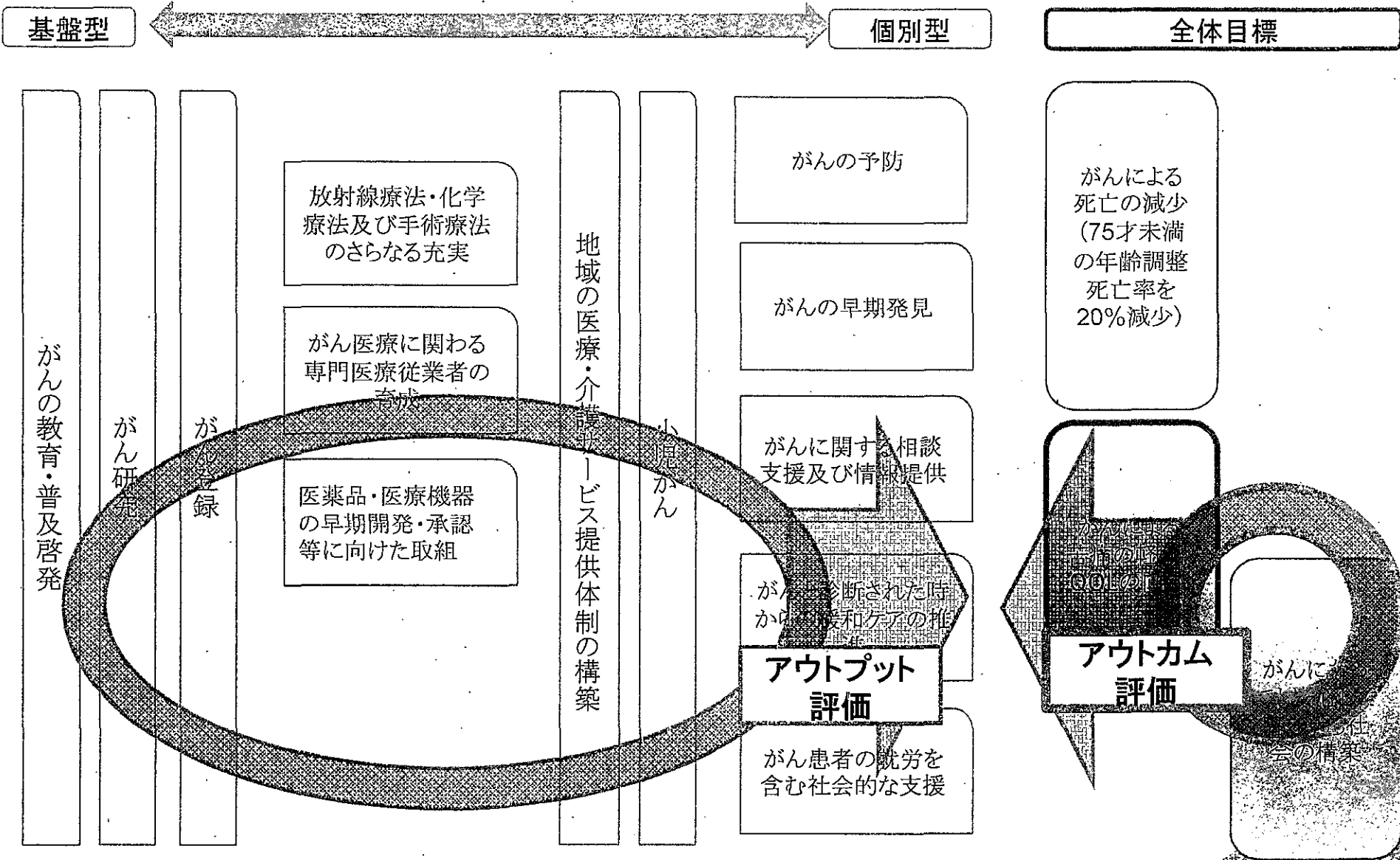
【評価枠組み】全体目標と分野別施策目標を踏まえて、評価枠組みを設定

分野別施策

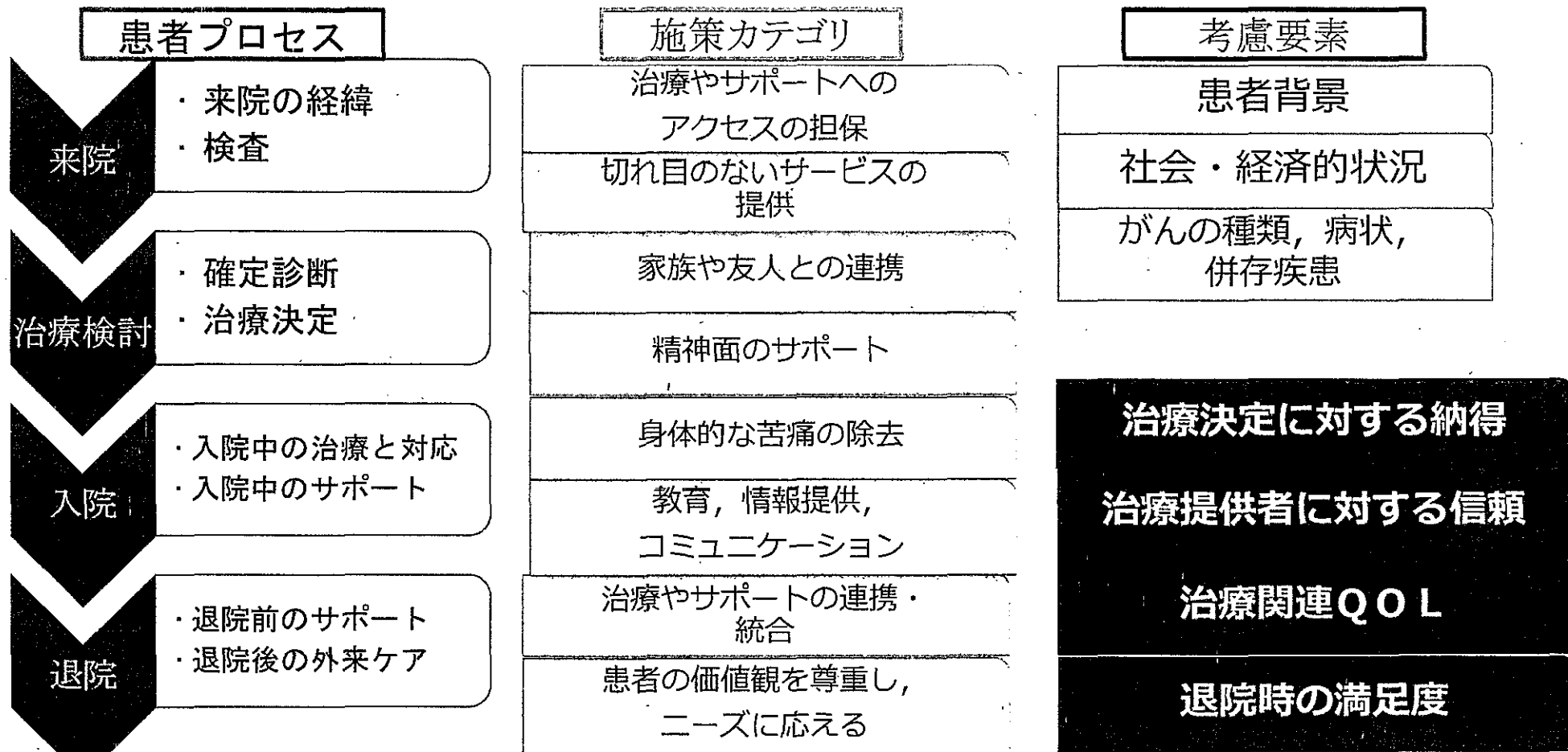


QOLの向上, 安心して暮らせる社会の構築に寄与する 評価を行う上で患者の経験を明らかにする

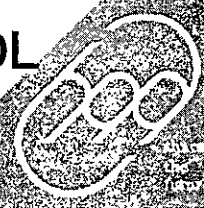
分野別施策



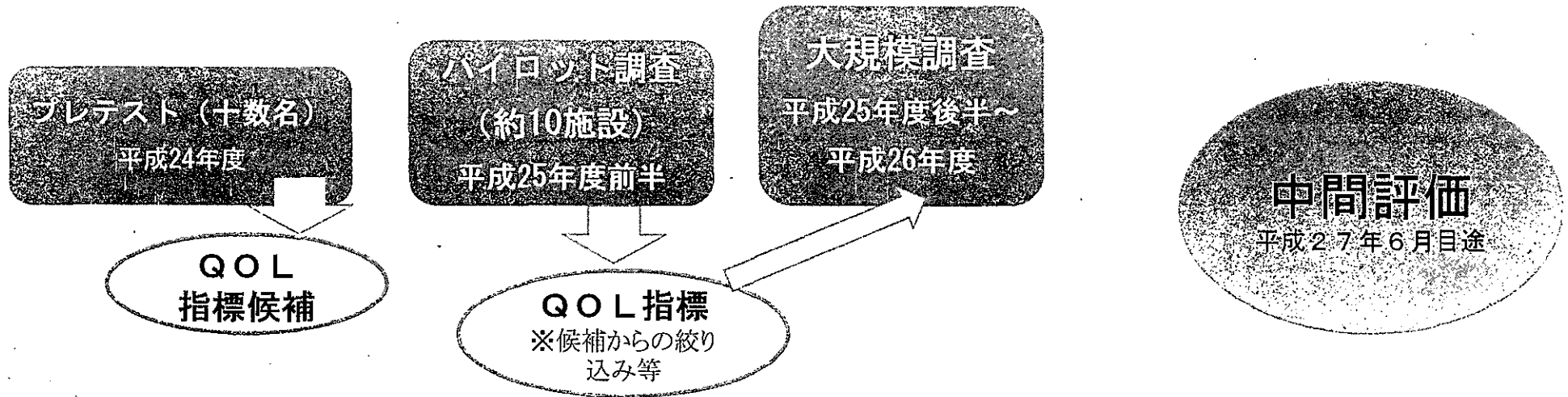
患者QOL評価指標の関連要素の検討に当たっての考え方



- がん患者・家族に共通のQOLとして、「治療決定に対する納得」、「治療提供者に対する信頼」、「治療関連QOL」、「退院時の満足度」を把握することを目的とする。
- 具体的な指標については、上記、多くの患者に共通する「患者プロセス」の視点とQOLに関連する「施策カテゴリ」の双方の視点から検討する。
- 個々の患者・家族で異なる背景等は可能な限り考慮することとする。



今後予定されるQOL関連調査と検討の流れ



○今回の指標候補は、平成25年度前半に予定しているパイロット調査に用いる項目。
○パイロット調査では、指標の絞り込みのための検討のほか、多くの拠点病院で実施する場合の実現可能性の検討(対象者の調査負担、実施体制、実施コストetc.)や評価方法確立のための検討等を行うことを想定。

○上記のほか、QOL指標関連として以下についても検討する。

1. 対象施設の拡大 (拠点病院→がん医療に関わる病院)
2. 対象者の拡大 (患者→患者, 医療提供者, 看護師, 介護者)
3. 対象領域の拡大 (病院患者体験→診断から地域生活も含むpatient journey)
4. 他調査との連携(各種データベースとの連携による癌種・stage・合併症の有無などを考慮した分析、緩和医療・相談支援など関連の強い領域との連携)

プレ調査の概要

- プレ調査実施時期：2013年2月
- プレ調査方法：グループディスカッション及び個別インタビュー
グループディスカッション：対象者合計16名（1回あたり3時間前後）
個別インタビュー：対象者合計17名（1名あたり平均90分前後）

個別インタビュー及びグループディスカッションの内容分析を行い、患者が自身が重要であると考えイベントの局面において、どのような事項・要素が関心事となったのかについてカテゴリを抽出。

またインタビュー実施後に患者体験質問紙に記入をお願いし、調査票の答えやすさや、項目の重要性などについても具体的なフィードバックを得た

患者体験調査において指標候補となる項目の妥当性の確認するとともに、今後、より広範にpatient journeyを把握する上での論点の整理を行った。

→分析を受けて調査票の構成、調査項目の内容、文言について修正

